

令和2年度 大阪高等学校 学校評価

1 めざす学校像

1927年（昭和2年）、旧制中学校として創立以来、「知育・徳育・体育の調和のとれた全人教育」を追究すると共に、時代の変化を見据えた新たな教育目標である「未来へ、世界へひらく自己の確立」を掲げ、ユニークな進学校を目指します。

- ①学力を多面的に捉え、向上を図る
- ②社会性と共に基本的生活習慣の確立を図る
- ③課外活動の充実を図る
- ④進路観を掘り起こし、実現を図る

〈目指す学校づくりとして〉

- ①学習活動と特別教育活動の両面を充実させ、人間的成長と希望進路の実現を図る学校
- ②生徒・保護者および地域から愛され、信頼されるとともに、安心して安全な学校
- ③広報活動を充実させ、より多くの中学生・保護者に理解いただき、支持を頂ける学校
- ④3年間生活する中で満足度が高くなる学校

2 中期的目標

1 主体的、対話的で深い学びの実現

- ①自ら学ぶ力の育成
- ②共に学ぶ力の向上

2 課題解決力の育成

- ①多様性を受け容れられるホームルームづくりに取り組む
- ②大高文化創造の柱として学校行事の充実に取り組む
- ③生徒会執行部を中心としたより一層の自治活動推進を図る
- ④部活動をはじめとする多様な課外活動への参加促進に取り組む
- ⑤ルール遵守を基盤に、対話を軸とした学習集団の育成に取り組む

3 選択する力の育成

- ①学年目標達成を目指し、教職員が進路支援に向けて幅広い知識習得や外部連携を円滑に行える環境を整える
- ②生徒の興味関心を広め、自らの課題を発見し、その解決に向けての自学自習や探究活動を促進する支援体制を構築する
- ③生徒が自立した社会的職業観を身につけ、進路実現に向けて「繋がる力」「繋げる力」を育成する

4 その他

- ①本校の広報活動の改善を図り、生徒・保護者・教育関係者等へのアプローチを推進する
- ②HPの改良に着手する
- ③耐震化に伴う工事を順次進める

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○「自己評価」に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全家庭に保護者アンケートを郵送、無記名回答。回収率 97.6% ・全生徒アンケートは2学期期末試験最終日に実施。教員がアンケートを配布、回収。 <p>[1] 生徒の自己評価</p> <p>○生徒の肯定的回答上位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) [規律ある学校生活] 高校生に相応しい規律ある生活、マナーを守った集団生活を自分は送れていると思いますか。 肯定評価の割合 88% (昨年より+3%) 2) [役割] 日直や係の仕事、クラス活動や学校行事の中で、自分に与えられた役割をきちんと果たそうとしてきたと思いますか。 肯定評価の割合 86% (昨年より+3%) <p>○生徒の肯定的回答下位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) [対話] 勉強や進路、部活動、学校の様子について、家族の方と話をしますか。 肯定評価の割合 74% (昨年より+1%) 2) [学習] 自分なりの目標や課題をもって、日々の授業や家庭学習に取り組んでいますか。 肯定評価の割合 65% (昨年より+5%) <p>[2] 保護者による学校評価</p> <p>○保護者の肯定的回答上位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) [総合満足度] お子様を本校へ入学させてよかったと思われませんか。 肯定評価の割合 94% (昨年より+2%) 2) [安全取組] 登校・下校時指導や緊急メールなど、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分だと思われませんか。 肯定評価の割合 93% (昨年と同じ) <p>○保護者の肯定的回答下位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) [自律学習] お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか。 肯定評価の割合 69% (昨年より+2%) 2) [育友会活動] 育友会(大阪高校保護者と教職員の会)の活動への関心度 肯定評価の割合 40% (昨年より-1.5%) <p>[3] 教員による学校評価</p> <p>○教員の肯定的回答上位2項目</p> <ul style="list-style-type: none"> [部活動] 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思いますか。 肯定評価の割合 92% (-3%) [学校行事] 本校は学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や姿勢が生徒や保護者に伝わっていると思いますか。 肯定評価の割合 90% (昨年より+9%) <p>○教員の肯定的回答下位2項目</p> <ul style="list-style-type: none"> [生活習慣] 生徒は、高校生にふさわしい規律ある生活マナーを守った集団生活を送れるようになってきていると思いますか。 肯定的評価の割合 50% (昨年より+3%) [自律学習] 生徒は、自分で立てた計画に沿って、自ら主体的に学習に取り組めるようになってきていると思いますか。 肯定的評価の割合 41% (昨年より+12%) <p>【分析】</p> <p>生徒の「規律ある学校生活」、保護者からの「安全取組み」や「総合的満足度」はここ数年高評価を維持している。「学習関係」と「目標設定」の2点は、昨年度より割合が向上している。一方で、学習関係、特に「自律学習」に関しては、昨年度より肯定的割合(保護者、教員)は向上しているものの、さらなる取り組みを推進する必要があると考えている。</p>	<p>今年度はコロナ禍のため、学校評価委員会を開催することができなかった。そのため自己評価アンケートの結果についての意見をメール等で頂く形式となった。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大阪高校に入学させて良かったの肯定的な回答が94%となったのは良い数値だが、逆に6%の否定的な意見も気になる。その理由も確認できれば尚良い。 ② 子供に獲得させたい資質の項目として、「将来を切り開いていく力」とあるが、抽象度が高く、わかりにくい。 ③ 学習指導への肯定的評価が73%と70%代に入ったことは喜ばしい。ただ、学習指導は学校の根幹である以上、更なる努力を続けてもらいたい。 ④ 学校行事については、新型コロナの影響で大きな影響を受けたはずだが、肯定的評価が89%とここ数年では一番評価が高い。規模を縮小しつつも、行事を実施した大阪高校校の姿勢は評価できる。 ⑤ 進路指導は肯定的評価がすこしずつ改善しているが(H30→75、R01→78、R02→79)、まだまだ改善の余地があると考えている。保護者会などで取り上げてほしいこととしても、「進路や入試に関する情報」を選ぶ回答が圧倒的に多く見られている。生徒だけでなく、保護者にも定期的に進路に関わる情報を提供するべきである。 ⑥ 育友会の活動に関心がある割合(40%)はまだまだ改善の余地がある。育友会の定義は、「保護者と教職員の協力連携の場」とあるが、実際はまだまだ、役員になられた特定の保護者と教職員の協力連携の場に留まっていると思う。もちろんそれだけでも、一定の役割を果たしているが、より多くの保護者と連携をしていくことが望まれる。育友会活動に携わることでアドバンテージを示す必要があると思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び続ける力の育成	<p>(1) 多面的な学力の向上</p> <p>ア 課題解決型プログラムの導入</p> <p>イ 夏季講座の充実</p> <p>(2) 指導力の向上</p> <p>ア 学年会議や校務会議の充実</p>	<p>ア 2年生総合コース総合的学習の時間でクエストを実施</p> <p>イ 無学年制を基本とし、教員が教えたい内容を提起</p> <p>ア 大学入試改革への理解を深める研修の実施</p>	<p>ア 全国大会を目指し活動し、学びのポートフォリオの作成</p> <p>イ 講座数と参加生徒数、事後アンケートによる満足度</p> <p>ア 月1回程度の研修実施</p>	<p>ア 全国大会出場逃す（一昨年度出場）</p> <p>イ 講座数 83 延べ講座受講数 1389（年平均 1400）参加者満足度 8 割以上が高評価</p> <p>ア ZOOM を利用した新しい研修を実施</p>
2 問題解決力の育成	<p>(1) 学校行事の充実</p> <p>(2) 帰属意識の向上</p>	<p>ア 文化祭におけるクラス参加の継続</p> <p>イ 文化祭における保護者への対応</p> <p>ウ 体育祭における学年ミックス参加の継続</p> <p>ア 新入生歓迎会でのクラブ参加呼びかけ オープンスクールでの体験・見学</p> <p>イ 担任⇒ブロック⇒学年での指導 保護者への蜜な連絡</p> <p>ウ 着こなし指導の継続実施</p> <p>エ Q-Uアンケートを活用しての学級運営</p>	<p>ア 工夫度の向上</p> <p>イ オンラインでのライブ配信</p> <p>ウ 各応援団参加 80 名</p> <p>ア 加入率 60%以上</p> <p>イ 出席率 98%以上</p> <p>ウ 年 4 回以上の着こなし</p> <p>エ 学級満足群 50%以上</p>	<p>ア コロナ禍の中、全学年舞台発表実施</p> <p>イ 保護者は来場できなかったが、ライブ配信と YouTube での配信を行う</p> <p>ウ 各応援団につき 50 名程度の生徒が参加</p> <p>ア 加入率 60%</p> <p>イ 出席率 97.6%</p> <p>ウ 年 5 回の着こなし週間を設定</p> <p>エ 学級満足群クラス平均 45%</p>
3 選択する力の育成	<p>(1) 自らの課題を発見する幅広い教養や情報</p> <p>(2) 地域社会の諸問題に取り組む探究心</p> <p>(3) 協働やキャリア形成意識のための基礎学力</p>	<p>ア 進路ガイダンス機会を各学年テーマ別に有効活用</p> <p>イ 学年と校務分掌会議の改革と充実</p> <p>ウ ラボ事業や CHOLA ゼミの実施</p> <p>エ 入学前教育の充実（進学前教育の推進）</p>	<p>ア 校内の人的資源と校外の人的資源の活用機会増加</p> <p>イ 学年別の適切な進路情報のための学年別年間ルーブリック評価を提示</p> <p>ウ ラボ・CHOLA ゼミ事業により、社会の諸課題や学びに触れ、自らの課題を設定させる</p> <p>エ 志望進学別課題</p>	<p>ア 外部ガイダンスを各学年別のテーマに沿って実施 延べ 100 校以上の大学専門学校、または企業が参加</p> <p>イ 進路検討の実施や戦略的学年別講和会の実施⇒進路決定率 98%の実現</p> <p>ウ 卒業後の学び続ける根拠と課題の探究</p> <p>エ 進学先の単位認定（科目等履修）講座の受講 延べ 20 名 進学先の入学前教育に加え、本学独自の進学前教育を提案実施（参加者 260 名）</p>
4 その他	<p>(1) 重点中学群・重点塾への広報活動の工夫</p> <p>(2) 教育実践の発信と HP の工夫</p> <p>(3) 安心安全を土台とした教育活動の発信</p>	<p>ア 出前授業の充実</p> <p>イ 中学校・塾との情報交換に重点を置く</p> <p>ア 日々の教育活動を映像で発信</p> <p>イ 探究コースの取り組みを広報の重点に</p> <p>ウ HP の権限を各クラブ・学年・分掌に分担する</p> <p>ア 安心、安全性確保の広報活動</p>	<p>ア 新規出前授業</p> <p>イ 訪問回数</p> <p>ア 学内情報の見える化</p> <p>イ 探究コースの情報提供希望</p> <p>ウ HP の訪問回数</p> <p>ア 安心安全な環境作りへの理解度上昇</p>	<p>ア 出前授業の依頼増加（前年比 7 時間増）</p> <p>イ 1000 回の訪問回数（前年度同数）</p> <p>ア 授業を直接取材した広報活動は好評</p> <p>イ 学校説明会での情報希望者増加 探究出前授業の増加（前年比 10 時間増）</p> <p>ウ HP 訪問回数 8905 回の増加</p> <p>ア コロナ禍での「学びを止めない」活動が本校入試において専願者増加につながる</p>